

安佐南区役所芸術展示 作品解説

【本作品の展示期間：平成31年3月3日から約1年間】

工芸展示作品「Happy Delivery」 作者：但馬 敦 (TAJIMA Atsushi)

2016年 <材質>銅、真鍮、925銀、純銀、七宝



ヨーロッパでは、ハリネズミは幸せを運んでくる動物として親しまれています。その愛くるしいハリネズミの容姿に加えて、「幸福」という花言葉で擬えるカスミソウ、フクジュソウ、ポインセチア、ガジュマルといった4種類の草花を身にまとわせることで、幸せを運ぶハリネズミをコミカルに表現しています。

作品は、彫金、鍛金といった金属工芸の技法で制作しています。素材は、銅、真鍮、銀、目の部分には七宝を焼き付けています。

工芸展示作品「おとぎ」 作者：櫻谷 夏 (NAKAMURA Mio)

2018年、栃、漆、麻布、金箔、銀粉、真珠



おとぎ話の中の世界を描いた蒔絵を、漆塗りで仕上げた化粧道具に落とし込みました。乙姫が暮らした煌びやかな世界、かぐや姫の美しさ、織姫と天の川など、物語の中でのお姫様の美しさがあまり知られていないところも含めて描かれています。

手の届かない物語の中の美しいお姫様の姿を手のひらで身近に感じられ、そして日々の生活により潤いを与えることに繋がればと思い制作しました。器として使用できるように箱ものに仕上げました。

日本画展示作品「彩」 作者：杉浦 沙恵子 (SUGIURA Saeko)

2015年 <材質>F15号、和紙、岩絵具、膠



昔から色鮮やかな吊り飾り等を見るのが好きでした。

その延長線で千羽鶴も見るのが好きなんだと思います。広島では千羽鶴というと平和のシンボルのイメージが強いと思いますが、違う地域だと縁起物や願掛けの意味合いが強いモチーフです。不特定多数の為のものより、個人のために折る鶴を飾るほうが素敵だなと思ったのを覚えています。

油絵展示作品「飾りのように」 作者：木須 悠太 (KISU Yuta)

2019年 <材質>F6号、パネル、アクリル、油彩



モデルを前にした時に、直方体の小さな水槽の中でベタが1匹、ただふわりと佇む光景を思い出した。丁寧に調整された照明によって白背景に浮かび上がった姿は、生き物らしい躍動やうねりはなく、どこか作り物のようで青紫色の冷たい色合いも相まって、まるでよくできた装飾品のようなだった。その飾りのように佇むベタの姿をモデルに投影して表現した。

彫刻展示作品《無題》Untitled 作者：ヤスミン フルスト (Jasumin HURST)

2008年 <材質>白御影石



私は2007年秋から一年間、交換留学生としてドイツのアラヌス大学（ボン近郊）から広島市立大学にやって来ました。私が初めて広島を見たときの印象は、古い伝統的な家がほとんどなく、ゆっくりと成長した美しい都市の感覚が感じられなかったということです。広島は原爆で破壊された後、人々のために早く居住空間を確保する必要がありました。

私にとって、家は人間と歴史の強いシンボルです。私は広島のこのような歴史の中で建てられた高層建物を、その象徴としてを創りました。

彫刻展示作品「Slow Step」 作者：池田 美和子 (IKEDA Miwako)

2009年 <材質>砂岩



「ゆっくり」という言葉はさまざまな意味で使われますが、時に人に安心感を与えるような気がします。

「すこしゆっくりしよう。」

そんな「ゆっくり」を表現しようと思い制作しました。牛の親子が水辺を静かに歩いている様子です。穏やかな気候、見守られている安心感、やさしい水や風の音、そんなイメージを込めながら「ゆっくり」を表現してみました。